

1 1) 植物標本庫 (OCF) の整備と活用

米倉浩司¹・天野正晴¹・阿部篤志¹

キーワード：生物多様性保全 証拠標本 保存 データベース

1. はじめに

生物の多様性の研究を行って業績を発表する際には、その業績の信頼性を将来にわたって担保するために、公開可能な証拠（多くは標本）の永久保管が求められる。維管束植物の場合は、おし葉にして平面的に乾燥させた標本を、採集情報を記入したラベルと共に規格化された台紙に貼付し、それを一定の配列に整理収納して閲覧の便に供するのが習慣となっている。現在では、さらに標本1点1点に識別番号を付し、重要な標本ではその番号を論文に引用することが求められるようになってきており、検索のための標本データベースも一般的となっている。

沖縄美ら島財団総合研究センターにも標本収蔵庫の一角に、植物標本を保管するスペースがあったが、識別番号の体系的付与などの管理が行われるようになったのは令和2年になってからである。令和3年には国際的な植物標本庫登録機関にOCFの名で標本庫の登録を果たし、以後ここに収蔵される植物標本をOCF xxxx (xxxxは標本識別番号)として学術文献に引用することが可能となった。

沖縄美ら島財団総合研究センター植物標本庫（以下、OCFと略記する）に収蔵される維管束植物標本には、以下のような特色ある標本が含まれる。

・伊波善勇氏採集標本

沖縄県の高校の教員をされていた同氏の収集標本で、池原直樹氏や中島邦雄氏らと合同で採集されたものも多い。沖縄県各地に加え奄美大島の標本もあり、現在では採集できない地域のもの、また、「沖縄植物図譜」（2007）などに掲載されている、伊波氏の植物画のもととなった標本も含まれている。

・財団職員による採集標本

生物多様性保全に関わる様々なプロジェクトで採集した維管束植物の標本で、特に西表島植物誌編纂事業に絡んで西表島で採集した標本が多い。他にも、環境省・(公社)日本植物園協会が主導する種子採集事業の証拠標本や絶滅危惧植物の保全のための生育地調査の際に許可を得て採集した標本も含まれる。

・他研究機関から交換や寄贈で得た標本

職員との交流のある他機関や個人からの交換や寄贈を通じて、沖縄県内外の標本を得る活動も行っている。特に東北大学植物標本庫(TUS)とは標本交換を通じて、南西諸島を中心に採集された20世紀末の標本の重複品などを得ている。

このほかに、前身の海洋博覧会記念公園管理財団当時から展示などの目的で集められてきた世界各地の種子や果実、植物繊維原料の標本もある。入手経路は様々であるが、近年のものでは海岸漂着種子なども含まれている。対応するおし葉標本がないために生物多様性研究の証拠としては使えないが、旧来からの目的である展示には様々に活用されている。管理上はOCFとは別に登録・管理がなされている。

2. 令和4年度における植物標本庫の整備状況

1) 標本の貼り付けと収蔵

令和4年度には2284点(最大番号OCF 9028)の標本を貼付、登録し、その大部分を分類配列に応じて整理・収蔵した(2月以降の登録分については未収納)。登録標本についてはMicrosoft Excelでデータ管理を行い、画像データは別途ハードディスクに保管されている。

¹植物研究室

2) 防虫管理

標本はそれをまとめるカバーに挟んだ状態で、チャック付きのポリ袋に密封して空調の完備した部屋に保管しているが、サンゴなど他種の標本と共同の保管庫のために植物標本の管理上は湿度が高いのが難である。また、令和4年秋には空調が不調の時期が1月ほどあり、その結果チャタテムシなどの害虫が発生をみたため、標本を順番に冷凍庫に入れて殺虫するとともに、バルサンを用いた燻蒸を行った。その後も散発的に虫の発生が確認され、その都度冷凍処理などで対処している。

3. 令和4年度における植物標本庫の活用

1) 博物館実習への活用

令和4年度には2回（8月と11月）にわたって大学生対象の博物館実習の場として植物標本庫を提供し、植物標本の管理法や作成法に関して実習を行った。

2) 学術研究への活用

Naiki et al. (2022) において、OCF の西表島産ホソバノキミズ標本6点が引用された。

3) 研究のための訪問・標本の貸し出し

今年度は、OCF 標本の研究者への貸し出しは行わなかった。また、調査目的での訪問者も0名であった。

参考文献

- 1) 伊波善勇, 2007. 沖縄植物図譜. (財) 海洋博覧会記念公園管理財団.